令和元年５月15日（水）
市民タイムス

ス
昭和46年（1971年）10月１日創刊　（第３種郵便物認可）

中山地区で始まったロボット草刈り機の実証試験

ロボット草刈り機開発へ

国内企業や研究機関　傾斜地用　中山で実証試験

傾斜地が多い中山間地の農地で大きな課題となっている草刈りの省力化に向け、自律移動ロボット技術を活用した「半自律式草刈り機」の研究開発が進んでいる。国の補助を受けて国内の企業や研究機関が連携して取り組んでおり、松本市中山地区の農地が実証試験地に選ばれた。約2カ月に1回の頻度で試験を繰り返しながら改良を重ね、50万円以下で購入できる量販型製品の開発を目指す。

（宮沢　一）

海運業の太洋産業貿易（横浜市）や産業技術総合研究所などが平成29年度から研究している。平地用の半自律式草刈り機の実証試験は岡山県美作市で行われてきたが、傾斜地用は中山地区がモデル地区で、東日本で初めて行われるという。

中山地区での実証試験に向けては、市や地元農家でつくる「市中山間地域農業活性化プロジェクト」が誘致した。太洋産業貿易の今田圭介社長は「松本が熱心で協力いただけるので」と中山地区を選んだ理由を語る。

中山地区では主に傾斜地に田畑があり、隣接する田畑の高低差が約4㍍ある場所も存在する。傾斜がきついあぜの草刈りをするのも一苦労で、危険も伴っている。市農業委員会が市に昨年度提出した意見書の中で、あぜの草刈りの省力化を要望した経過もあり、主要事業の一つに先端技術を使った次世代農業の推進を掲げる同プロジェクトが動いた。

中山地区での実証試験は14日に始まり、関係者が開発中の草刈り機を試した。無線での遠隔操作や人の手助けを受けての自動走行などが可能で、実現すれば雑草管理の作業時間が5割以上減らせると期待されている。

同プロジェクトのマネジャーで市農政課の中村尚文課長は「農家が一番苦労している課題が解決され、中山間地の農業に意欲的に取り組んでいる人の手助けになれば」と製品化に期待していた。

令和元年５月15日（水）
中日新聞

農作業の負担軽減へ

半自律式草刈り機の動作試験

横浜市の企業などが開発中の半自律式草刈り機の動作試験が十四日、松本市中山の水田のり面で行われた。中山地区などの中山間地域では、水田間に急傾斜ののり面がある。その草刈りが農作業の大きな負担になっており、草刈り機はその軽減が目的。試験には周辺の農業者十人ほども訪れ、「実用化されれば作業はうんと楽になるはず」と期待を寄せた。（川添智史）

水田のり面で試作草刈り機の動作状況を確かめる太洋産業貿易の今田社長㊨ら＝松本市中山で

松本の農業者、実用化へ期待

市農業委員会によると、のり面の草刈りは年数回行う。害虫の発生予防などが目的だが、急傾斜で重い草刈り機を操作するのは重労働で、転落の危険もある。農業者の高齢化も進んでおり、負担軽減が急務になっている。

市は本年度、こうした課題の解決と農業振興を目的に「市中山間地域農業活性化プロジェクト」を立ち上げた。中山地区はモデル地区で、この日の試験は市が誘致した。

試験した半自律式草刈り機は、センサーを組み込み、作業場所に目印を付ければ自動で動作するようにする計画で、大幅な省力化が期待される。

小型電気車などの車体や駆動系の開発を手掛ける太洋産業貿易（横浜市）など三社が国の補助を受けて開発している。

三輪の電動車体がのり面上部のあぜ道を走り、車体から伸びた草刈り部が斜面の草を刈る仕組み。草刈り部は長さの調節が可能で、幅数㍍ののり面でも作業可能にする。

この日は初の実地試験で、同社などの開発チーム十人ほどが試作機の走行状態を観察。草刈り部の車輪が、草の根元などの凹凸にひっかかる課題が見つかった。

開発チームは今後、二カ月に一度ほど訪れて試験を繰り返し、来年度中の完成を目指す。販売価格は、既存の乗用草刈り機の半額程度となる五十万円ほどの計画。同社の今田圭介社長（六四）は「使用できる部品の制約などもあるが、地域で一台買って、使い回せる製品にしたい」と力を込めた。

試験を見学した市農業委員会の小林弘也会長（七三）は「中山間地域の稲作は、労力の半分以上を草刈りに割く現状。製品化に期待している」と話した。

令和元年５月15日（水）
信濃毎日新聞

中　信

開発中の草刈り機を試験運転する関係者たち

最新の草刈り機　松本で実証試験

市や企業　中山間地支援探る

松本市は14日、中山間地の農業支援に向けて企業などと連携し、自動走行や無線操作に対応した最新の草刈り機の実証試験を同市中山地区で始めた。維持管理の負担が大きい傾斜地の水田などで、持続可能な農業の支援策を探る。

草刈り機を開発しているのは海運業の太洋産業貿易（横浜市）など県外2社と産業技術総合研究所（産総研、茨城県つくば市）。国の補助を受け、2020年度にも試験機を完成させる計画で、1台50万円以下を目指している。松本市農政課が技術に着目し、市内での実証試験を打診した。

草刈り機は電動モーターを搭載しており、車輪や無限軌道で走行する。あぜを走りながら、斜面の草を刈ることができるものもある。試験は、軟らかい地面に沈んで進まなくなるといった課題を確認しながら進めた。

この日は地元農家らも見学。農業法人代表理事の清水芳明さん（70）は農家の高齢化で草刈りの負担は増しているとし「50万円以下で維持管理も簡単なら現実的。実用化を期待したい」と話していた。

試験は今後、2カ月に1回ほどのペースで行う予定。

塩尻市教育長に　赤羽氏の人事案

市会臨時会で提出へ

塩尻市の小口利幸市長は15日の市議会臨時会で、教育長に市学校教育指導員の赤羽高志氏（61）＝広丘堅石＝を新任する人事案を提出する。市議会の同意が得られれば、任期は6月27日から3年。現教育長の山田富康氏は任期満了の同26日付で退任する。

赤羽氏は文教大卒。中南信